

茨城大学同窓会連合会会報

2018.3
第12号



年々参加者が増えるホームカミングデー

同窓会活動をご一緒に



茨城大学同窓会連合会会長
土田 惣一
同窓会連合会会長を務めております文理・人文学部同窓会会長の土田惣一です。今年もよろしくお願いたします。

近年、急激な人口減少、社会経済のグローバル化、ライフスタイルの多様化等により大きな転換期にあります。このような中、茨城大学は、「地域と世界において未来を切り開き活躍できる人材の育成」と「自治体や企業・団体などと連携し、地域再生の拠点」となる大学を目指し、学部学科改組をはじめ諸改革に取り組んでおります。

連合会としましても、茨城大学のこの新しい教育方向に向け、協力・支援していきたく思います。まずは、引き続き、大学並びに各学部同窓会と十分に情報・意見交換を行うことによりまして、10年を経過した連合会のあり方、役割を常に考えながら、在学生在が輝き、茨城大学が一層飛躍していけますよう、ひいては地域の発展にも寄与していけますよう同窓会活動を展開していきたくと考えております。

また、11月の茨苑祭初日に「ホームカミングデー」を平成28年から大学と共催をしておりますので、多くの同窓生には是非キャンパスに足を運んで、大学・学生の現在の姿を見て、感じていただき、ご意見やご支援を頂戴したいと思います。

さらに、「ホームカミングデー」とは別に、卒業生が比較的多く集まりやすい、例えば東京などで、大学教職員・同窓生が一同に会し懇親を深めながら、大学の姿や誇りを共有することを積み重ねていくのも必要かなと考えています。関係各位のご指導・ご協力を切に願いたします。

創立70周年／創基150周年記念事業の開始



茨城大学長
三村 信男

本学は、2019年に創立70周年を迎えます。さらに、2024年には、源流である拡充師範学校創設（明治7年）から数えて創基150周年を迎えます。そこで、この2つのエポックをつないで、創立70周年／創基150周年記念事業を開始することにしました。

この事業の目的は、①我が国社会を支えてきた本学の誇るべき歴史を再認識すること、②茨城大学の次世代ビジョンを構想すること、③3キャンパスでの施設整備を進めること、の3点に設定しました。

昭和24年7月に開催された開校式において、鈴木京平学長は以下の様に訓示して第1期生を鼓舞しました。「諸君自身も個性を大いに伸ばしてもらいたい。文、理系から大発明家が出、教育系から大政治家、大新聞人が出ても一向に不思議ではない。茨城の地は日本歴史上文教の地として異彩を放っている。諸君こそ茨城大学の先頭である。野心満々たれ。」

それ以来、本学は9万人以上の有為な卒業生を輩出し、地域と共に歩んで我が国社会を支えてきた誇るべき歴史があります。創立70周年／創基150周年事業では、こうした実績を再確認できるビジュアル年表の作成や、創立100年に向けた本学の未来ビジョンの提案などを行いたいと考えています。さらに、3キャンパスでの学生の学修・生活環境の整備を行います。

これらの事業は、同窓会連合会としっかり連携を取って進めたいと思いますので、ご協力を宜しく願いたします。

◆ ◆ ◆ 同 窓 会 交 流 コ ー ナ ー ◆ ◆ ◆

文理・人文学部同窓会の近況報告

文理・人文学部同窓会副会長兼事務局長 鈴木 章史

平成 29 年度は、第 33 回理事会が 7 月 8 日（土）に三の丸ホテルで開かれました。本年は、人文学部創立 50 周年に当たるとともに 4 月から人文社会科学部に改組されたこともあり、人文社会科学部と共催で記念式典を開催しました。同窓会員、県教育長、関係市町長等来賓並びに三村学長を始めとする大学関係者合わせて約 100 名の出席者があり、式典後、人文学部経済学科第 2 回卒業生で、東宝株式会社取締役や TOHO シネマズ株式会社代表取締役をお務めになるなど、経営者として辣腕を振るわれる一方、映画文化の振興にも努められた村上主税氏による、「スクリーンに魅せられて」と題する記念講演会が行われました。その後の懇親会では、来賓祝辞や乾杯の後歓談に移り、終始和やかな雰囲気の中、懐かしい話や新しい学部の話題が飛び交い、50 年の歴史と新しい人文社会科学部との融合のような場面

となり、盛会裏に終了しました。

また、職域・地域支部として「水交会（在京同窓会）」の第 12 回総会（隔年開催）が東京都大手町サンケイプラザで開催され、三村学長が初めて出席されるなど、160 名余の同窓生が集まり、恒例の講演会では、人文社会科学部教授・図書館長の高橋修氏による「常陸佐竹氏の成立」と題した講演がされました。さらには、学部横断での「県庁同窓会」や「県南同窓会」がそれぞれ行われ、同窓生間の交流が和やかに行われました。



第 12 回水交会の様子

教育学部同窓会の近況

教育学部同窓会副会長 菊池 正利

昨年 12 月 16 日に、前同窓会会長の堀川賢寿氏への感謝の意を表する会を、水戸のみまつホテルで行いました。執行部を中心に学長、教授、有志の方々が集まり、堀川氏の多大な輝かしい業績を称えました。

堀川氏は教育学部同窓会発足後の第 3 代会長として、昭和 42 年から平成 29 年まで 40 年の長きにわたり会長を務めてこられました。その間、茨城県教育界に多くの業績を築き、本学教育学部同窓会の存在を国内外にわたり不動なものとししました。

特記すべきは、少子化の影響を受ける教育学部の存続と、学生の資質の向上のため「教職教養講座」を開講しました。教育行政を経験した同窓会会員を講師として、平成 11 年から始まり、同 21 年まで実施いたしました。後輩学生の期待は年毎に高まりました。

「同窓会報」第 12 号から始まった堀川前会長の巻頭言は、人間の社会、哲学、心理学、自然、古典、先哲の教え、人間形成、国際感覚等々と多面に至り、教育者として多年に培われた学識、鋭い感受性と直感、高邁な識見と人生哲学は、教育の根源に迫って書かれておりました。会員一同、毎回感銘を受けました。

「同窓会報」の誌面は、その時代の教育思潮を着実に反映した論説、実践記録等を取りあげて同窓会員への教育活動の指針となるものを提言してきました。今後も会員の教育活動に重要な資料としていきたいと思ひます。



堀川氏をかこんで

平成29年度・理学部同窓会活動を振り返って

理学部同窓会副会長 鈴木 忠和

平成 29 年度の理学部同窓会として開催あるいは協力した行事等を時系列的にみると、以下のとおりとなります。

- (1)平成 29 年度第 1 回常任幹事会（5 月 23 日（火））
- (2)第 20 回・幹事会（6 月 3 日（土））
- (3)平成 29 年度第 2 回常任幹事会（9 月 6 日（水））
- (4)第 7 回理水会（10 月 11 日（土））
- (5)理学部創立 50 周年・記念式典（10 月 20 日（金））
- (6)同窓会連合会総会（11 月 11 日（土））
- (7)会報 20 号発行（11 月）
- (8)平成 29 年度第 3 回常任幹事会（12 月 13 日（水））
- (9)平成 29 年度第 4 回常任幹事会（平成 30 年 3 月・予定）

上記活動の中で、(1)、(3)、(8)、(9)は毎年 4 回開催されているもので、同窓会活動について各常任幹事からの報告と現状の確認を行っています。今年度は第 4 回を平成 30 年 3 月に開催予定としています。(2)の幹事会は毎年 1 回開催されており、当該年度の同窓会活動について常任幹事会からの提案を討議、承認をしています。同窓会の活動はこの承認のもとに推進されています。(4)は水戸市とその近隣地区における会員同士の交流を推進するために、平成 23 年 6 月に発足した同窓会・水戸支部（理水会）の活動で、今年度は水戸市のみまつホテルにおいて 23 名の参加者を得て開催されました（集合写真）。(5)は 1967 年に創設された理学部

創立 50 周年を祝して開催されたもので、水戸駅南にあるホテル・テラスガーデンにおいて開催されたものです。学長、学部長等からの祝辞に続いて 2001 年にノーベル化学賞を受賞した野依良治先生の「私の来し方、君たちがつくる明日の社会」と題した講演が行われました。(6)の同窓会連合会は例年 11 月に開催される「ホームカミングデー」に合わせて開催されており、当該年度の事業、会計報告、事業計画、役員選任について議論されます。(7)の会報は、大学、理学部の近況を伝えるとともに学生・同窓生のコミュニケーションを推進するうえで大切な役割を果たしています。今年度は 20 号が発行され、約 3,200 人の同窓生に送付されました。

同窓会の活動は 12 月現在、概ね順調に推移しています。平成 30 年度は第 7 期の 4 年間の活動を推進するための総会の開催が予定されており、新たな目標に向けて常任幹事会の役割がますます大切となります。



第 7 回理水会の集合写真

工学部同窓会「多賀工業会」の近況報告

多賀工業会理事 清水 淳

昨年は6月18日(日)に馬場工学部長・多賀工業会名誉会長をお招きし、浜松市で隔年開催の総会が理事会、静岡支部総会、懇親会と共に開かれました。総会では馬場工学部長より30年度からの新学科等について具体的な説明を賜りました。他にも静岡支部の講演会や懇親会での出席者の近況報告などを経て大盛況の下に幕を閉じました。開催にあたりご苦勞賜った静岡支部と支援の中部支部に深く感謝申し上げます。次回は二年後の同時期に水戸市にて水戸勝田支部担当で開催予定です。

前週11日のこうがく祭では、例年通り東京と埼玉支部の協力で写真展が開かれ、多くの来場者にご覧頂きました。昨年は四年に一度の名簿発行年でもあり、皆様のご協力で11月に無事約36,000名を擁する本会の会員名簿を発行できました。

工業会全14支部では若手会員の活動の活性化と支部活動の増強を課題に、引き続き本部と支部が連携し取り組んでいきます。昨年は在学生対象に工業

会アンケートを実施し、結果を改善に活かそうとしています。そして本部・支部事業を通じ、会員に愛され会員に役立つ同窓会を目指し、引き続き活動していきます。

最後に、運営の中核であった塩幡宏規会長が残念ながら12月に急逝されました。塩幡会長のご功勞に衷心より感謝申し上げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



多賀工業会総会の集合写真

農学部同窓会活動 2017 年度

農学部同窓会幹事長 黒田 久雄

農学部同窓会では、2019年4月発行予定で5年ごとの「農学部同窓会会員名簿」の準備作業を始めています。名簿は必要無いというご意見を毎回いただいておりますが、農学部と卒業生間の連絡に果たす名簿の役割は大きいと考えています。農学部の状況はネットで十分と思われる方もおられるかもしれませんが、大学を補完する役割も大きいです。例えば、卒業生へのアンケートにも名簿が役立っています。それは、残念ながら大学の持つ卒業生連絡先は更新されておらず情報として不十分なためです。将来的には、大学が名簿管理を行う可能性もありますが、現状では同窓会でしか名簿管理ができていません。同窓会は、名簿発行に際し、名簿の氏名・住所・電話・勤務先などの情報を名簿に掲載するか確認し、予約販売でしか発行していません。たまに農学部同窓会に卒業生の住所を知りたいと問い合わせをいただき

ますが、原則的に全てお断りをしています。

農学部は、平成29年度から新学科体制となり1学年の定員が160名となりました。これを受けて農学部同窓会活動を見直し、刷新を図る予定でいます。農学部卒業生の皆様には、さらなるご支援をいただければと思います。



田植え実習の様子

大学トピックス

同窓会活動の拠点として

茨城大学社会連携センター長 影山 俊男



同窓生の皆さまには、日頃から本学にご支援を頂いており、心より感謝申し上げます。同窓会は大学にとって最大にして最強のサポーターであると心得ておりますが、同窓会の皆さまとの意見交換会などで大変気になることが指摘されています。それは同窓会活動に参加される会員の高齢化と入会率の低さです。同窓会活動はさまざまな制約条件のなかで進められておりますが、大学としてどのように同窓会活動を支援していけるのか、真剣に考えていかなければならないと思っています。

私がセンター長を務める社会連携センターには地域社会と大学を結ぶ『窓口』としての役割がござい

ます。センター内には同窓会の活動や会議等にもご利用いただける施設がございますのでぜひご活用ください。社会連携センターが同窓会活動の拠点となり、同窓生同士だけでなく、教職員や在学生との交流も深めることにより、オール茨城大学の輪を形成できればと存じます。

「地域に支えられ、地域に頼りにされる大学」を目標に、地域との連携・協働活動を通じて、より良き地域社会の創造に貢献していくとともに、大学の教育力と研究力の充実を図るために、同窓生の皆さまにもお力添えいただければ幸いです。母校にも足をお運びいただくとともに、一層のご支援ならびにご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第12回総会、及びホームカミングデーを開催

平成 29 年 11 月 11 日(土)、水戸キャンパス図書館ライブラリーホールにおきまして、第 12 回総会が開催されました。総会は土田惣一会長の挨拶に始まり、①「役員の交代について」、②「平成 28 年度事業報告及び収支決算について」、③「平成 29 年度事業計画案及び予算案について」の 3 件の議事が諮られ、それぞれ満場一致で承認されました。

総会後は、会場を福利センター(大学生協食堂)に移し、「ホームカミングデー 2017」が盛大に開催されました。今回のホームカミングデーには、同窓会連合会の幹事を中心とした実施委員会が設置され、ホームカミングデーを全学的な取り組みと位置付けた上で、具体的な催しや企画の立案を検討いたしました。

また、各同窓会のご協力のもと、多くの卒業生・修了生をご招待することができ、前回を上回る総勢 185 名の方々にご参加いただきました。それぞれが旧交をあたためるとともに、学生や教職員、名誉教授の先生方も懇談し、終始和やかな雰囲気につつまれました。



在学生と校歌を斉唱する卒業生

今後も卒業生・修了生の輪が広がり、交流を深める場を大切にしていまいます。次年度のホームカミングデーには、より多くの卒業生・修了生のお顔を拝見出来すことを楽しみにしております。

平成 28 年度事業報告

年月日	事業項目	内容
H28/10/13	茨城県庁茨城大学同窓会平成 28 年度総会	会長、副会長の出席
H28/11/12	第 35 回幹事会・第 11 回総会ホームカミングデー 2016	①平成 27 年度事業報告及び収支決算について ②平成 28 年度事業計画案及び予算案について ③平成 28・29 年度の役員について ※ホームカミングデー 2016 の共催(共催金 5 万円)
H28/11/29	「茨城大学基金」への寄附	5 万円を寄附
H29/ 3/ 1	会報「第 11 号」発行	発行部数: 5,000 部 卒業生・修了生への配付
H29/ 6/ 7	第 36 回幹事会	①ホームカミングデー実施委員会の設置について ②ホームカミングデーの共催について ③大学と同窓会の意見交換会の開催について ④茨城大学基金の周知協力について
H29/ 6/27	茨城県庁茨城大学同窓会平成 29 年度総会	会長、副会長、顧問の出席
H29/ 8/28	第 37 回幹事会	①茨城大学同窓会連合会総会の開催について ②平成 29 年度事業計画案について ③ホームカミングデーの実施について ④大学と同窓会の意見交換会について
H29/ 9/20	第 11 回 茨城大学と同窓会連合会及び学部同窓会との意見交換会	同窓会の組織率向上のための方策等について

平成 28 年度収支決算 (会計期間: H28.10.1 ~ H29.9.30)

事 項	収 入		支 出	
	決算額	備 考	決算額	備 考
1 繰越金	1,160,832	円	1 管理費	144,278
2 会費	250,000	同窓会連合会会費(5 学部同窓会×5 万円)	(1) 通信費	29,474
3 事業費	0	総会後の懇親会をホームカミングデーに組み込んでいるため、会費等の収入は無し	(2) 印刷費	113,400
4 預金利息	10	2 月分・8 月分	(3) 事務費	1,404
合 計	1,410,842		2 事業費	158,600
			(1) 会議費	8,600
			(2) 交際費	50,000
			(3) 寄附金	50,000
			(4) 共催金	50,000
			3 予備費	0
			合 計	302,878
			残 額	1,107,964 (平成 29 年度へ繰越)

平成 29 年度事業計画

年月日	事業項目	内容
H29/10/18	第 38 回幹事会	①第 12 回茨城大学同窓会連合会総会議事について ②大学と同窓会の意見交換について(継続検討) ③ホームカミングデーの実施について ④第 12 号会報の発行について
H29/11/11	第 12 回総会	①役員の交代について ②平成 28 年度事業報告及び収支決算について ③平成 29 年度事業計画案及び予算案について
H29/11/22	ホームカミングデー 2017 開催	大学との共催事業(共催金 5 万円)
H30/ 3/ 1	「茨城大学基金」への寄附	5 万円を寄附
H30/ 3/ 1	会報「第 12 号」発行	発行部数: 5,000 部 卒業生・修了生への配付を予定
H30/ 3/ 1	第 39 回幹事会	①同窓会の組織率向上のための継続検討 ②同窓会の組織率向上のための継続検討 ③大学と同窓会の意見交換会について
H30/ 5/ 1	第 40 回幹事会	①同窓会の組織率向上のための継続検討 ②大学と同窓会の意見交換会について
H30/ 7/ 1	第 12 回 茨城大学と同窓会連合会及び学部同窓会との意見交換会	大学と同窓会の連携強化策について(仮)
H30/ 9/ 1	第 41 回幹事会	①第 13 回総会及びホームカミングデー 2018 について(仮)

平成 29 年度予算 (会計期間: H29.10.1 ~ H30.9.30)

事 項	収 入		支 出	
	決算額	備 考	決算額	備 考
1 繰越金	1,107,964	円	1 管理費	160,000
2 会費	250,000	同窓会連合会会費(5 学部同窓会×5 万円)	(1) 通信費	30,000
3 事業費	0	総会後の懇親会をホームカミングデーに組み込んでいるため、会費等の収入は無し	(2) 印刷費	120,000
4 預金利息	10	2 月分・8 月分	(3) 事務費	10,000
合 計	1,357,974		2 事業費	160,000
			(1) 会議費	30,000
			(2) 交際費	30,000
			(3) 寄附金	50,000
			(4) 共催金	50,000
			3 予備費	1,037,974
			合 計	1,357,974

* H30/11/ 第 13 回総会・ホームカミングデー 2018

茨城大学同窓会連合会役員

名誉会長	三村 信男	(茨城大学学長)
顧問	尾崎 久記	(茨城大学理事・副学長(学術統括))
顧問	太田 寛行	(茨城大学理事・副学長(教育統括))
顧問	影山 俊男	(茨城大学理事(社会連携))
顧問	能島 征二	(日本芸術院会員 公益社団法人日本美術展覧会副理事長 公益社団法人日本彫刻会常務理事)
会長	土田 惣一	(文理・人文学部同窓会会長)
副会長	外山 彬	(教育学部同窓会会長)
副会長	久保田益充	(理学部同窓会会長)
副会長	舛井 正義	(多賀工業会副会長(会長代行))
副会長	福地 省行	(農学部同窓会会長)
代表幹事	糟谷 政和	(文理・人文学部同窓会幹事長)
幹事	鈴木 章史	(文理・人文学部同窓会副会長)
幹事	金子 一夫	(教育学部同窓会常務幹事)
幹事	山村 靖夫	(理学部同窓会常任幹事)
幹事	清水 淳	(多賀工業会理事)
幹事	黒田 久雄	(農学部同窓会幹事長)
会計監事	秋山 和衛	(教育学部同窓会監事)
会計監事	井上 栄一	(農学部同窓会学内幹事)

編集後記

卒業生や修了生との絆を深めていく上で、同窓会連合会や各学部同窓会、地域・職域同窓会の活動は非常に重要です。各同窓会組織がより強固なものとなるよう、各会員のご協力をいただきつつ、大学との連携強化も進めております。

大学とは毎年意見交換会を実施しており、昨年は 9 月に開催いたしました。各同窓会で課題とされている同窓会の組織率(入会率)について具体的な議論が行われ、その方策案が示されました。今後、同窓会連合会、各学部同窓会、大学とそれぞれの問題点を洗い出し、実現に向けた検討を進めてまいります。

また、各学部同窓会(縦)と地域・職域同窓会(横)との関係を強化し、活動の活性化も提案されました。同窓会活動の幅も広がることと思われます。

卒業・修了された後も大学を身近に感じることができるよう、また、大学を盛り上げる力となるよう同窓会組織の運営をしてまいります。引き続き、皆様にはお力添えいただきますようお願い致します。

平成 30 年 3 月 茨城大学同窓会連合会代表幹事 糟谷 政和

茨城大学同窓会連合会事務局
(茨城大学社会連携センター連携渉外課内)

〒310-8512 水戸市文京 2-1-1

電話: 029-228-8781 FAX: 029-228-8089

茨城大学 HP

<http://www.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学同窓会連合会 HP

<http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/alumnus/union/>